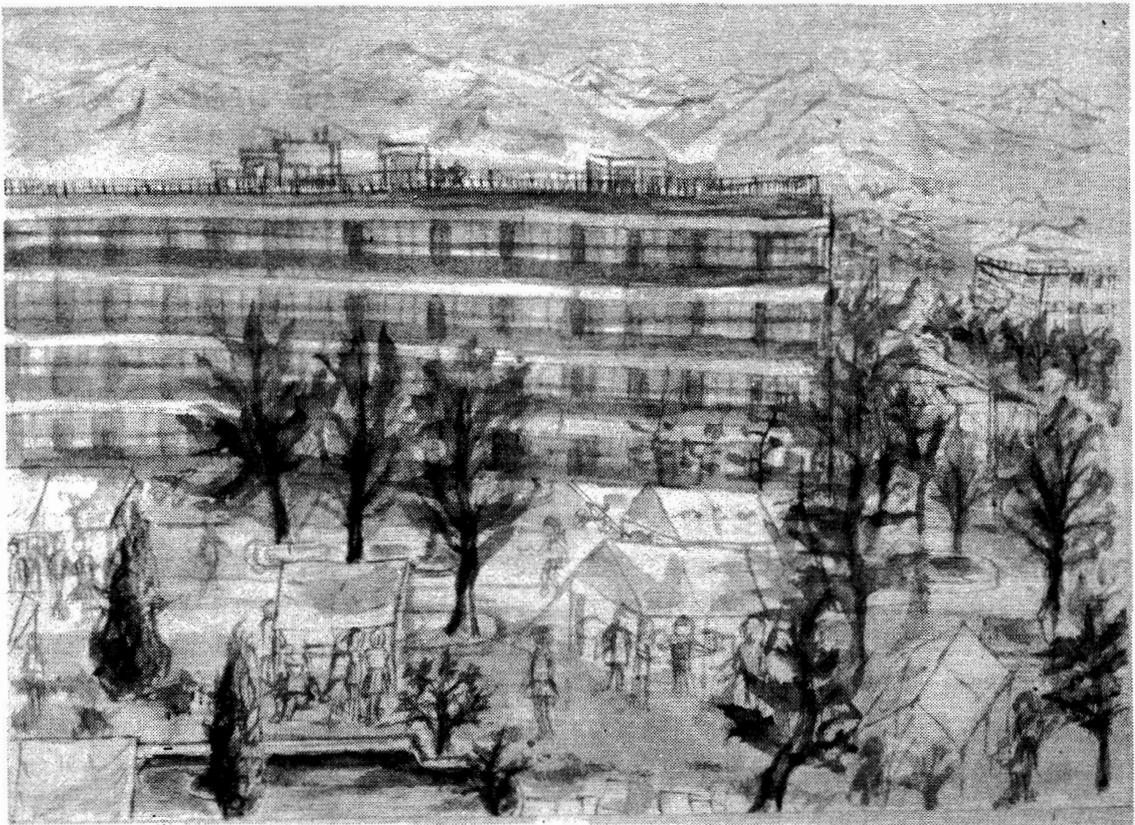


学園ニュース

富山大学
No. 42

編集 学園ニュース編集委員会 発行 富山大学

昭和 58 年 7 月 5 日



学内風景(その7)学生会館前 斉藤喜代美

—— 目 次 ——

| | | |
|-------------------------|-------------------|----|
| ご挨拶..... | 工学部長 位崎敏男..... | 2 |
| 学生部長に就任して..... | 学生部長 本田 弘..... | 2 |
| 新任教官紹介及びあいさつ..... | | 4 |
| 欧米の都市を巡って..... | 教育学部助教授 實 清隆..... | 10 |
| クラークソン工科大学への留学を終えて..... | 理学部助教授 對馬勝年..... | 11 |
| 学部, 学生部だより..... | | 18 |

ご 挨拶

工学部長 位 崎 敏 男

早いもので、本年4月に工学部長に就任致しましてから、もう2ヶ月余りがたちました。新しい職務への対応に追われる毎日で、まだ所感などを述べるような心境ではございませんが、この機会をおかりして、移転にあたりましての御礼やらお願いやらを二、三述べさせて載せます。

工学部の多年の懸案であり、また学内の皆様にも大変ご心配をお掛けし、またご協力を戴いて参りました五福移転が、お陰をもちまして愈々実現の運びとなり、本年4月より待望の新校舎建設のスタートが切られました。まことに喜ばしいかぎりでありまして、まさに工学部の歴史の上に一つの時代を画するものと申せましょう。移転の実現によりまして、各学部との交流と連帯は一層深まり、それを通して工学部の教育研究のポテンシャルも一段と高まり、ひいてはわが富山大学の発展にも幾何かの貢献が出来るものと期待しております。

振り返ってみますと、昭和39年に工学部教授会で始めて五福移転が決議されて以来、実に20年になんなんとする、まことに長くけわしい道のりでしたが、この厳しい道を乗り越えていま宿願の達成をみる事が出来ましたのも、ひとえに学内外の実に

多数の方々の絶大なご努力の賜であることは申すまでもありません。ここに工学部を代表いたしまして、関係各位のご尽力に対し深甚な謝意を表する次第であります。なおまた、今後新営工事の進展に伴ないまして、学内各位に直接間接に何かとご迷惑をお掛けすることが多いかと思いますが、よろしくご理解とご支援の程をお願い致します。

五福キャンパスに新生工学部の誕生をみる日も間近いこととなりましたが、しかし工学部としましてはこれで事が終わったわけではありません。新しい革袋には新しい酒をのたとえもありますように、それにふさわしい内容の充実がなければなりません。移転問題とも関連して工学部の整備拡充が停滞していることは自他共に認める所であります。したがってこの度の五福移転は、工学部の整備拡充という新しい目標への出発点でなければならないかと考えます。厳しい国の財政事情や、工学教育に発想の転換が問われている昨今の状況を考えますと、これもまた誠に厳しい道であろうことは容易に想像できますが、新しい工学部像を模索しながら粘り強く取組んで行かなければならないものと思います。関係各位の格別のご支援を重ねてお願い申し上げる次第であります。

学 生 部 長 に 就 任 し て

—— 教官・学生諸君に期待すること ——

学生部長 本 田 弘

本学に赴任して(昭和51年4月)、私は、二つのことに驚いた。一つは、メインストリートの車の騒音であり、いま一つは、大学祭における夜を徹しての学生の狂瀾ぶりである。前者については、大学が早急に適切な方策を講ずべきことを「当局へのお願い」と題して、新任教官の挨拶にかえ、「学園ニュース」(No 20)に載せた。後者については、大学の周辺に住み、その被害を諸に受けた住民の一人として、当時の岩淵学生部長に抗議と善処方を強く求めたし、文理学部教授会にも同じ趣旨のことを要望した。

爾来7年余り、その間私は、発足時の交通対策委員

長を途中から引き受け、今回学生部長の職に就いた。

各機関、関係者の努力、学生諸君の自主的規制等で大学祭については、なお充分ではないとしても事態の改善が見られるようになった。しかし、車の騒音については、英断と不断の地道な努力の積み重ねとがなければ、事態の改善は、容易ではないであろう。

本学の教育研究条件一般を更によりよく整えることについて、評議会、各学部・教養部教授会、学生諸君自身等がどの程度の自覚と認識とをもっているのだろうか。現実の事態を見ると、私は、より一層の改善を

待したい気持である。

ただ、ここでは、本学が抱える諸問題のうちの若干

学生の立場等について

昭和48年の東大紛争を契機とする昭和44年から昭和45～6年にかけての全国諸大学に見られた学園紛争の折、学生の立場・地位についても検討が重ねられた。一般に、大学は、真理探究の府として存在するという大学の位置づけは、自明のことだとしても、大学が抱える諸問題を解決する基点は、常にかような大学の位置づけを確認してかかるところに存する、と言えよう。

また、大学がもつ学問の自由、自治は、教官はもとより、学生にも等しく保障されなければならないし、その限りにおいては、教官と学生との立場は、対等である。更にまた、教育研究機関としての共同体を構成する重要な構成員としての資格を学生諸君ももつわけであり、この認識は、学園紛争以後定着した考え方で見てよい、と思われる。

したがって、学生諸君が評議会や教授会等に対して行い批判や意見は、それが妥当性をもつ限り、充分教育研究計画の内容・方法及びそのための諸施策等の中に取り入れられていかなければならないものである。しかも、大学に学生諸君の批判や意見が活潑に展開されることの保障があり、また、評議会、教授会等がそうした学生諸君の主張に耳を傾けることがなければ、評議会や教授会等の機能、あるいは教官自身の頭脳が硬直化し、大学自身のもつ創造的探究の営みと社会一般に対する批判の府としての資格が失われる危険性がある。

しかしながら、学生諸君には大学や学部等の管理運営に参加することは、許されない。また、教育研究は、政治的には中立の立場が堅持されなければならないから、学生諸君の大学に対する批判や意見も、純粋に教育研究条件や内容の改善に連なるものでなければならないし、そこに、学生諸君もまた守らなければならない節度と限界がある。

ちなみに、学寮問題を巡って昨年度から、大学側と寮生との間に見られる対立は、厳しく、憂慮される事態さえ生じている。

しかし、翻って考えれば、現行の学寮規則・細目が

教官の教育上の責務について

繰り返すまでもなく、大学は、教育研究機関であり、

のことに触れて、学園の静謐ということについて、教官、学生諸君の協力をお願いしたいと思う。

設けられたのは、昭和40年である。この間移行措置等様々な事情により、完全な実施の遅れていることは、やむをえないことであるとしても、ほぼ18年間という年月は、余りにも長いのではないだろうか。したがって、本年2月評議会が学寮規則・細目の早急の実施を再確認したことは、極めて当然なことだと言わなければならない。評議会は、大学の管理機関として、自らが決定した諸規則等の実施上の責任をも負っているからである。また、なお学寮問題に言及すれば、富山大学発足に際し、旧制高等学校等の寮もまた本学の学寮として発足した。しかし、学寮の制度上の位置づけ、運営等は、ほぼ従前どおりの理念に基づいていたと見られるのである。すなわち、旧制の諸学校が教育上の一環として保持していた寮の諸制度・慣行もその儘継承する措置がとられたということであるし、大学としての学寮が本来どのような理念と基礎の上に設置、運営されるべきかの問題は、残された、と考えられるのである。本学について言えば、そうした諸問題の見直しが行われて、昭和40年漸く大学としての学寮に相当する規則等の改正が行われたもの、と私は解する。

したがって、そうだとすれば、寮生諸君に学寮規則・細目に強い反対、批判の存することは、充分承知しているものの、しかし、反対は、反対としながらも、さしあたりまずはこれを了として、この学寮規則・細目に即して学寮生活を営んでもらいたいのである。しかも、学寮規則・細目にどのような不備・欠陥が存するかは、その実行をとおしてしか実証されえないのであるから、ただ観念的にのみ反対を主張することは、真理の探究を志す者に相応しいことではないということになるのではなからうか。

そして、もし実施の過程において、規則・細目に不備・欠陥の存することが明確になれば、その時点において、規則・細目の改正を求める手続がとられるべきであるし、それが大学を含めての今日の日本の社会に定着する民主主義の基本原則であろう。なによりも寮生諸君の自覚と自重を求める次第である。

教官は、教育研究の営為を直接担当するとともに、教

授会、評議会の構成員としては、大学、あるいは学部・教養部の管理運営上の責任をももつ。

ところで、ここで触れたいのは、各教官周知のことであるかもしれないが、教育という営みについてである。大学教育は、教育課程と時間割に即して、主として教室で行われる。したがって、教育とは、授業実施のことのみであり、教室外での学生の行動に教官は、直接係わりがないというような見解が存するかもしれない。端的に言えば、補導という概念に属する事からについては、教官がこれに直接与らないという見解である。

しかし、学生補導の基本方針は、全学補導協議会、学寮委員会、学部・教養部補導委員会等で検討され、評議会・教授会が決定する教育上の重要な事からである。そうだとすれば、補導という範疇に属する事からもまた当然教官の教育活動の中に含まれるものであり、学生部を中心としての事務官の直接関与すべきものではないということになる。更に言えば、教官は、研究室

と教室と自宅との三者の間をただ往復さえしておれば、それで自己の職責が果されているということにはならない。本学のキャンパスの車の騒音を含め、学園内の学生一般の諸活動のうち、もしそこに学生の守るべき節度や限界を超えるものが存在するとすれば、そうした事態に対する学生指導は、すべて教官の職務に属する教育活動だということになるわけである。

端的に言って、本学においては、静謐な学園の秩序がなお十分には保持されていない、と私には見受けられるのである。各教官は、かような事態を率直に認識されるとともに、学部・教養部の枠を超えて相協力し、本学が抱える諸問題の解決にあたることがなければ、すぐれた教育研究条件の確立は、なかなか望めないのではなからうか。

本学の教職員、学生諸君は、本学が真理探究の府により相応しい秩序の上に存立するよう一層の努力を傾けられることを、私は願っている。

新 任 教 官

- 服部 良久 助教授(人文学部) 5 8. 4. 1
昭5 2. 3 京都大学大学院文学研究科西洋史学専攻博士課程単位取得退学
担当：西洋史学
- 榎木 謙周 講師(人文学部) 5 8. 4. 1
昭5 5. 3 京都大学大学院文学研究科国史学専攻博士課程単位取得退学
担当：日本史学
- 神谷 重徳 教授(教育学部) 5 8. 4. 1
昭4 2. 3 京都大学大学院医学研究科博士課程修了
担当：障害児病理
- 丹羽 洋介 助教授(教育学部) 5 8. 4. 1 6
昭4 3. 3 東京芸術大学大学院美術研究科修士課程修了
担当：絵画
- 塚田 泰彦 講師(教育学部) 5 8. 4. 1
昭5 3. 3 東京教育大学大学院教育学研究科修士課程修了
担当：国語科教育
- 荻原 洋 講師(教育学部) 5 8. 4. 1
昭5 6. 3 東北大学大学院文学研究科修士課程修

- 了
担当：英語学
- 古田 俊吉 助教授(経済学部) 5 8. 4. 1
昭5 0. 3 神戸商科大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学
担当：財政学
- 武脇 誠 助手(経済学部) 5 8. 4. 1
昭5 8. 3 一橋大学大学院商学研究科博士課程退学
担当：管理会計
- 松浦 郁也 教授(理学部) 5 8. 4. 1
昭3 5. 3 大阪府立大学大学院工学研究科博士課程単位取得退学(昭35.11.30 工学博士)
担当：物理化学
- 溝口 常俊 助教授(教養部) 5 8. 4. 1
昭5 4. 3 名古屋大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学
担当：地理学
- 中河 伸俊 講師(教養部) 5 8. 4. 1 6
昭5 8. 3 京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学
担当：社会学

新 任 雑 感

人文学部助教授 服 部 良 久



私はこれまでの32年余を、三重、京都、奈良で過ごしてきました。古い歴史と文化をもつ関西での温室的な生活に区切りをつけ、富山に転任することが決まったとき、正直なところさあ大変だぞお、と思ったものです。

さて富山に来てみれば、誰しも同じことでしょうが、まず、真白な立山の峰々の感動的な美しさ、学生時代に登ったことのある、見おぼえのある形の山々が街のうしろにパノラマのように聳立している、これに感激しました。以来好天の日には飽きずに仰ぎ見ながらの毎日です。車での帰路、富山大橋からの眺めはすばらしく、山にみとれて追突しそうになったこともありました。美しい山を見ていると私は、美女に対してと同じように、近くへ行き、触れたいくなります。登りたくなります。事実早速、山麓までは出かけましたが、少し体を鍛えなければ登山は無理なようです。海が近く、魚介の美味しいことも、胃袋人間たる私には何よりです。新鮮なホタルイカを食べるには、自分で漁りに行くのが一番だろうと、深夜バケツをもって四方の海岸へも出かけました。イカも私の凄じい殺気(食い気)

を感じたのか成果は無しでしたが、焚き火をして獲物を待っていたときには、縄文人もかくや、との興奮と充実を覚えた次第です。子供を連れてきておれば「ワンパクでもいい……。」と叫んだことでしょう。これから夏、初秋にかけて、京都や奈良とは異なる野性的な富山の自然(とその産物)を楽しむ機会はいくらだろうと、胸をときめかせているこのごろです。……それで冬はどうなのでしょう。富山の冬の生活の厳しさについてはいろいろ聞いていますが、それでも心配でよく人にたずねます。学生諸君にしつこくたずねると、「折角良い気候になったのだから、冬の話はやめましょう。」といわれ、益々不安になります。世界でもっとも厳しい一気候帯の生活を体験されたある先生は、私のこの質問に対し、「バカモン、そんなこときくな。一冬越せばわかる。」と一喝されました。そのとおりなのでしょう。冬を越したとき、私の富山観は変わるのでしょうか。私自身は、尾羽打ち枯らした鳥のようになっているか、或いは「ワンパクでもいい……」と叫ぶかの父親の如くあるのか……。今次第に濃青色になりつつある立山連峰が再び白くなるとき、私も冬の重さを感じることでしょう。そして再び春を迎え、この山々をやはり美しいと感じたら、私も富山人になるのかもしれない。

富 山 に 来 て

人文学部講師 櫛 木 謙 周



富山に来てもう1か月以上たち、大学や町のなかの様子もだんだんわかってくると、これまでの自分をもう一度見つめ直してみようと思うことがあります。

私は、この地に来るまでは奈良市内に住んでいて、京都市の大学に行っておりました。いわ

ば古代の都のあった地に日常的に接していたわけです。私が日本古代史を専攻するようになったのは、郷土の歴史を学ぼうという積極的姿勢ではないにせよ、このような環境に多少なりとも影響されていたといえるで

しょう。

古代では確かに奈良や京都は政治・経済の中心であり、この地域の研究の重要性は決して否定できません。しかし、このような「中央」は「地方」があってはじめて成り立つものですし、そもそも「中央」といい、「地方」といい、それぞれが主体性をもった地域の歴史として見られるようになってはじめて、都が中央であった真の意味もわかってくるのではないかと考えます。その意味で、奈良・京都から離れたところに身を置いて生活し、勉強することは自分にとって非常に重要なことだと思います。

随分自分勝手な思いつきを書いてしまいましたが、

これから長く学問や生活についてじっくり考え、語り

あえる場を得て幸せに思います。

新任にあたって

教育学部教授 かみ 神 や 谷 重 徳



早いもので、関西より着任して2ヶ月になるのに、つい昨日のこのように思われてなりません。20余年もの長い間、京都大学医学部を振り出しに精神医学をやって来た者が、縁あってはからずも、はたけちがいの教育学部で障害児病理を担当することになりました。精神医学と特殊教育とのはざまに立って、両者の統合という発想の転換を迫られているのをひしひしと感じております。一体何をすればよいのか、さて又何が出来るのだろうかという疑問を絶えず自分に投げかけるこの頃です。

これまでで接した皆さんには何かと親切に相談にのって頂けるので感謝しております。がこれは大学の内での話。止むを得ぬ事情で、近頃珍しくもない単身赴任の形をとり、研究の都合もあって関西への往復をくりかえしている現状なので、富山の人情、地理に触れるのは之からであります。

私が専攻する精神科領域は、いつも地域の人々の価値感と関連しているものであります。障害児教育でも同様であり、その背景にある家の問題や関係者の態度などについても、富山ならではの人間理解のしかたがあるでしょう。私は、これまでの臨床経験を通じて得た精神医学の普遍的知識といわれるものでも、富山という現実のなかで、もう一度時間をかけて洗いなおしてみたいと思います。

私が専攻する精神科領域は、いつも地域の人々の価値感と関連しているものであります。障害児教育でも同様であり、その背景にある家の問題や関係者の態度などについても、富山ならではの人間理解のしかたがあるでしょう。私は、これまでの臨床経験を通じて得た精神医学の普遍的知識といわれるものでも、富山という現実のなかで、もう一度時間をかけて洗いなおしてみたいと思います。

気候温暖な愛知県の三河地方に育ちました故か、若い頃雪国への慕情切なるものがありましたのにその機会がなく、髪に白いものを加えるに到って漸く念願を達した次第です。残雪に輝く立山連峰の素晴らしさは言わずもがなとはいえ、仰ぎみられる日の意外と少ないのが残念です。この夏は、その昔喘ぎ歩いた雲平一太郎一有峰の懐しい山路を中学生の息子と2人で逆に辿ってみるつもりです。又、冬には年寄りの冷水とかわられてもひるまずにスキーを楽しみたいと思います。

新任の挨拶

教育学部助教授 丹 羽 洋 介



富山大学に来てから、ほぼ一ヶ月が過ぎました。10年来、住み慣れた鎌倉を去って、家族共々に新しい生活に少し戸惑いながらも、早く慣れようとしています。

美術科の絵画を担当で、私の専門はフレスコ画と言う、西洋の伝統的な壁画技法です。絵と聞けば、キャンバスや画用紙にのみ描くものと思われているので、砂と石灰で壁を塗り、その壁がまだ乾ききらないうちに描写す

るフレスコ画は、半ば左官屋さんの仕事のようなものです。最新の技術や理論を実践する大学の、最も高い場所（第三教棟五階）で、石灰と砂をこねているのは、ちょっと愉快なことだと思います。最も原始的な素材や行為から出発して、未来につながる研究ができれば良いなと思っています。ところで、今、私が一番うれしいことは、5階の研究室への登り降りが、あまり苦にならなくなったことです。学生が本気にやる気をおこした時、少くとも若さとスタミナで彼らに負けたくはないからです。

新任の挨拶

教育学部講師 塚田 泰彦



4月1日付で、筑波大学附属駒場中・高等学校より着任致しました。

神通川近くの官舎に入居して2ヶ月程になりますが、春の提防は殊の他心のみ、陽気にひかれてついふらふらしておりましたところ、近頃では、もう初夏

の陽射しに吃驚させられています。

私は滋賀県北部の出身で、大学及び前任校は東京で過しましたが、子供の頃は琵琶湖に注ぐ姉川の提防でよく遊びました。その体験が深く心に刻まれている所為か、河川には深い愛着を覚えます。いつか大河の傍に住んでみたいと思っておりましたので、今回偶然そ

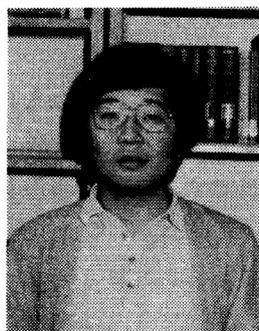
の念願が叶い喜々としております。

もっとも、私も一応北陸の一隅に育ちましたので、冬の陰鬱な日々がどのようなものであるか、おおよそ見当はつきますし、覚悟もしております。たまたま昨年暮れに一度本学を訪れた時、東京は晴天続きで、また全国的に暖かかった所為で、スーツ姿で参りましたところ、雪に降られ、愕然としたものです。コートもなく震えておりました私に、現在は同僚として親しくして戴いている先生の一人は、「とんだ日におこしになった」と御心遣いを戴いたものでした。

こうした第一印象をもつての赴任だったこともあって、のびやかな平野と立山連峰、神通川、そしてこの明るい春の光の中で、気分一新、新しい研究生活に入ることができたことを何よりも幸いと思っております。

新任のごあいさつ

教育学部講師 荻原 洋



この四月に英語学担当教官として赴任いたしました。本学に参ります前は、東北大学文学部で助手をしておりました。仙台市は杜の都と言われるだけあって、緑に恵まれたきれいな街でしたが、富山市もまた、それ以上に自然の美しい街と聞いてお

りました。実際、通勤途中に渡る神通川の景観、眺めるたびに心清められる思いの霊山立山の峰々、市内のところどころに見られる樹々等楽しい限りです。また教育学部の諸先生方にも暖かく迎えていただき幸せに感じております。

皆様の御指導のもと、この良き地で、増々精進しなければと思うこのごろです。

新任の挨拶

経済学部助教授 古田 俊吉



私は富山生まれ富山育ちですが、ここ十数年間は関西と九州におりましたので、新しい所へ赴任して来たという感じがしています。これまで海のすぐ近くに住んでいたということもあって、釣りにはよく出かけました。スキーができなかったのは残念

ですが、今年の冬からはできそうなので楽しみです。

ところで、私の担当しております財政学は、簡単にいいますと、政府（公共部門）の存在理由はどこにあるか、また政府はどこまで市場機構に介入・干渉すべきであるかという問題の分析を課題とする、公共部門の経済学です。余りにも卑近な例で申し訳ないのですが、犬や猫の避妊手術に対する地方公共団体の補助金や住民の要求による市町村職員の蛙釣り、宝くじ・競

輪・競馬・競艇などの収益事業、空かん回収条例、雑誌自販機規制条例、モーター規制条例なども、政府の役割と活動領域の限界を分析する上での重要な事例に他なりません。現代の経済社会においては、政策の規範が多様化し、また価値が多様化しており、ほとんどのケースにおいては政府の役割か否かをア・ブリオリに判断することはできません。最終的には、政治的過程にその意思決定を委ねることになります。財政学の

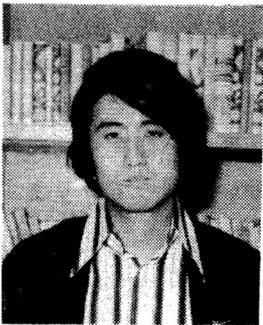
存在意義は、したがって、政府の個々の政策の効果ないしメリット・デメリットを徹底的に吟味し、政治的意思決定の際の価値判断材料を提供することにあるといえましょう。

環境が新しくなったのを好機に、気持も一新して財政問題に取り組んでいきたいと思っております。皆様の御指導と御教示をお願い申し上げます。

故

郷

経済学部助手 武 脇 誠



「故郷はどこですか」と訊かれることがある。そんな時、とりあえず「東京」、「大阪」、或いは気まぐれに「名古屋」と適当に答えることにしている。実のところ、東京で小学校4年まで、その後2年間を名古屋で、そして中学、高校を大阪で過し、

それ以後再び東京で生活してきた人間にとって、果たしてどこを故郷と呼べるのであろうか。そこで、時間のある時は以上の経緯を説明し、その後で「だから雑種です」と答えることにしている。

そんなわけで本拠地がない代わりに、どこに行ってもその土地にすぐ馴染めるという利点を持つ。おかげで富山という初めての土地にも関わらず、何の違和感もなく、まるで隣町に越して来たような気安さでこの2カ月間を過ごすことができたように思う。

もっともその理由は、単に懐かしむ故郷を持たないということばかりではないかもしれない。

実は、私の祖先は父方も母方も富山の人間で、祖父母の代に初めて東京に出て来たそうだ。従ってその昔、雄大な立山連峰を眺めながら、冬の豪雪と闘ってきたものと想像される。だから、というのでもないが、無意識のうちこの土地に順応するものが、私の内部にあるのかもしれない。

先日、こちらの大学に御世話になることを知って、祖母が非常に喜んでくれた。「富山は非常に良い所だよ」と。老齢のため記憶がかなり曖昧になっているにも関わらず、昔のことはよく覚えているらしい。

置県100年の記念すべき年に戻ってこれたのも何かの縁、この職業を通じて少しでも地域社会の発展に貢献できたら、と思っている毎日です。末長くよろしく御願ひ致します。

新任のあいさつ（ヨーロッパより帰国して）

理学部教授 松 浦 郁 也



富山大学への第一歩は非常に印象的でした。それは小さい大学ではあったけれども、その清潔さと静かなただずまいの中に若々しい新入生たちの希望に満ちた姿にひさびさに接したことでした。私は数年前に某先生より富山大学に来ないかとの誘いの話がありましたが、それが突然現実のものとなり

15年間におよぶヨーロッパでの研究生活に終止符を打って帰国して来ました。帰国を決心させた理由は幾つかありますが、その一つにはヨーロッパの大学における学生と教官との一対一の個人の人格を尊重しての教育、さらに学生達と共に切磋琢磨して学問を礎き上げていくという方法を日本の大学で実践して見たいと言う夢があったからです。

よく知られているようにヨーロッパの大学には入学試験はなく、大学進学コースの高校で学び卒業資格試

験(日本の共通一次試験のようなもの)に合格すれば本人の希望する大学に資格試験の合格順位に関らず入学することができます。しかし大学での勉強はきびしく学生たちのほとんどが卒業するのに7~8年を費やしています。ただしヨーロッパの大学は5年制で卒業すると修士の称号をもらいます。このようなシステムの中で大学や学生達の社会的評価はどのようになされているのかと言うと、それは個々の教官の質の高さと、学生たちの卒業研究の内容によって下されるものと言えます。このような形を日本の現在の社会構造の中でもちこむことは到底不可能なことと思いますが、一人の学究としてまた教師として、よりよい研究を進める

ことと、それが出来る環境づくりに努力して行きたいと考えています。

またヨーロッパには、私が在籍したベルギーのルーバン大学はもちろんのことですが、オランダのライデン大学、ドイツのチュービンゲン大学、英国のケンブリッジ大学などのように、大学がその都市の歴史を礎きあげ、その都市の文化と発展を担って来た学術都市が多くあります。私は富山大学がこれらのヨーロッパの大学と同じように富山市の文化や都市の発展に貢献して現在に至っていることに喜びを感じると共に、さらに富山における開かれた大学として大きく発展することに期待をかけております。

新 任 雑 感

教養部助教授 溝 口 常 俊



わが郷里名古屋にある実家は、加賀藩主前田利家生誕の地から500mと離れていない。今はなき曾祖母の昔し話によると、わが先祖は利家につかえる身、といっても風呂たきをしていたというから奉公人のたぐいであったのであるが、その行状よろしくなく、利家につきそわれて加賀へ出向いた優秀な仲間には入れてもらえなかったという。400年近くたった今、やっと加賀藩の一領地へ迎えられたと、まずは不出来な先祖に報告しておくべきであろうか。

さて、地理学を専攻する小生は目下「日本における畑作農村の史的展開」および「ネパールにおける地域間交流」というテーマのもとにフィールドワークに力を入れて研究をしている。ところが、富山県は全国でも屈指の水田率を示す県である。このことは前者の畑作のテーマに関してはきわめて不利な土地へ来てしま

ったといわざるを得ない。こちらへ来てしばらくは相当なげいていたが、最近黒部川扇状地等水田地帯でも、水田化される以前の景観を復元して、その開発過程を明らかにすることに焦点を置けば決して研究ができない場所ではないとして気をとりにおしている。

もう一つのテーマに関しては、その構想を練るにあたって最高の土地へ来ることができたと喜んでいる。1977年11月30日にはじめてネパールはポカラ(カトマンズの西方バスで半日の行程にある)に到着したときの感激が、富山市から剣・立山の雄姿をまのあたりにして思いおこされた。ネパールのマッターホルンと呼ばれるピラミッド型のマチャプチャレ(6,993m)が剣岳であり、その背後をとりまく8,000m級のアンナプルナ山群がまさに立山である。ネパール山岳地帯をいきかう素朴な人々、道路に背負いかご(ドッコ)を置き商いをする人々、次に訪ねるときは彼等に会って何をはなしてこようかと、通勤の行き帰りに思いをはせている。



新 任 雑 感

教養部講師 中 河 伸 俊



私が初めて富山大学のキャンパスに足をふみ入れたのは、ちょうど4年前、関西社会学会の大会が本学で開かれたときのことでした。私にとってはそれが初めての学会発表だったので、つけられないネクタイをつけてしゃちほこばり、大学の門をく

ぐったときから、緊張しきっていました。そのせいか、そのときの学内の様子がどんなふうだったか、ほとんど覚えていません。ただ、発表を終えたあと、生協の喫茶部で飲んだコーヒーがおいしかったこと（その頃は何種類もの豆がおいであったように思います）だけが、はっきりと記憶に残っています。

そのとき、そこで教官の職につくとは夢にも思っていなかった本学に、こうして着任することになったのは、月並みな表現ですが、やはり「縁」があったのだと思います。折角の縁を生かすことができるように、講義・研究の両面で、気をひきしめて努力してゆくつもりです。

私の出身地は京都ですが、いわゆる京男ではありません。実家のあたりは比較的最近市内に編入された郊

外で、私の一家が住みつくまでは、川と竹藪と小さな山に囲まれた無人の湿地でした。今は転業しましたが、私の子供の頃の家業は小規模な酪農でした。一軒家だった我が家が住宅地にとり囲まれてゆく過程は、近所の田んぼがなくなり、裏山がそっくり取り崩されて名神高速道路の盛り土になり、ホタルやシジミ貝やオハグロトンボが姿を消し、緑がどんどん減ってゆく過程でもありました。

富山のことばで言えば、引っ越してきて二カ月足らずの私は、歴然たる「旅の人」だということになります。ところが一方で、子供時代とすっかりあたりの様子の変わった実家に戻っても、やはり私は自分が「旅の人」であるような気がします。考えてみれば、三年余りのシカゴでの留学生活も、以後の京都の町なかでの下宿暮らしも、その場所に慣れ親しみながらも本当にその場所に「属する」ことができないという意味では、私にとって「旅」の連続でした。今度、五福に借りたアパートの傍には、田んぼがあります。その田んぼに、規則正しく植わった稲の苗に、子供時代の風景に通じるなつかしさを感じて、私の「旅」が富山で終わればいいな、などと、ふと考えてみたりする昨今なのです。

欧米の都市を巡って

教育学部助教授 實 清 隆

このほど、文部省の在外研究員として、一年間、欧米を歴訪する機会があり、欧米の17ヶ国、100余の都市を巡って来た。

都市は、その国・その地域を代表する「顔」とも言うべきもので、一晩でも過ごせば、ある程度、その場所のイメージが握まれると言うものだ。小生は「都市」を訪れると、きまって、その中心から効外へと隅なく歩くようにしている。その街のたたずまいのtransitionを見るのが実に面白い。

唯、都市にも、世界的に、「流行」があり、どの都市でも、都心部には、鉄とコンクリートの塊のニューヨーク風オフィスビルが林立し、効外部では、公団風の住宅団地の建設が目立つなど、そのstereo type

化が著しい。そんな中で、都市部周辺は、どの都市でもゴチャゴチャした「繁華街」がある。そこには人間らしい生ぐささが残っている。小生はこの場所が最も好きで、一番、時間をかけて過ごす所である。

アメリカとヨーロッパの都市を感じるまま比較しよう。アメリカの大都市はそれなりに魅力的だ。世界で最も話題になっている映画、ミュージカル、トップ作家の画廊、トップニューモードの店、ギャンブル的遊戯場等々アーバンアメニティに満ち溢れている。

だが、それも昼の間だけ。現実には異常なばかりの犯罪がある。殺人・強姦などの犯罪率は、ダウンタウンでは、日本の100倍以上になっている。危くて、夜は一人で歩けない。「夜を取り戻してくれ！」とい

う切なる市民の声が出て久しくなったが、一向に、事態は好転しているように見えない。

この点、ヨーロッパのダウンタウンは楽しい。都心部、その周辺は歩行者天国になっていて、夜遅くまで大勢の市民がゾロゾロと歩いている。そこには都会らしい喧騒と笑い声がある。ロンドンのソーホー地区、ローマのテルミニ周辺、フランクフルトのAlt Stadt、スペインのグランピア周辺等々印象に残る街だ。小生はそれらの街に入ると、決って飲み屋に入った。そこでは面白い話が聞けるからだ。

“ロンドンの動物園は高いね。親子で10ポンド(4,800円)も取られたよ。その点、大英博物館は無料でよかった。”“動物園の動物のエサ代があがって、予算の金だけでは腹一ぱいにらんから、お客からもエサを無心という事だ。大英博物館は「盗品展」みたいなものだから、まさか金はとれないだろう。(パブでの話)”

(パリでのBarの話)“何、コインロッカーに入れておいたバッグが盗まれたと。俺たち(フランス人)じゃないよ。あいつら(ジブシー、スペイン人)に違いねえ。……(最近、パリでも、経済不況で、外国人労働者の失業者が多く、都市犯罪が増加している。)”

とにかく、ダウンタウンの小ぎたない飲み屋は、気がねなく、その国の人と友達になれる場所である。そんな所での人とのふれ合いが、旅情を豊かなものにしてくれる。

もう一つ、ヨーロッパの飲み屋の特色は、ビールとか、ワインとか言ってもその値段がせいぜい数百円程度で安く、ほられる事はまず無い。お客の半数も女性客だ。この夜の楽しい一時を、男性だけで独占している日本は、その意味でも「男尊・女卑」と言われても仕方があるまい。

それにしても、最近のヨーロッパは、世界的不況を

反映して、外国人の労働者や、当地の若年層にとって、失業問題は深刻だ。米国に比較して、殺人・強姦と言った凶悪犯こそ多くはないが、窃罪・サギなどの犯罪は急増して来ており、数年前までは、南イタリアだけは危ないと言われていたのが、今は、全ヨーロッパに拡がろうとしている。

ところで、都市づくりで、一番大切な事は、その都市が、市民本位に、都市行政がなされているかどうかという事だ。つまり、市民の都市行政への参加であるが、この点では、欧米の都市から学ばねばならない事が多い。

欧米では、市民が都市計画についてディスカッションする場面が多い。例えば、小生が住んでいたLondonのKilburn地区でも、住宅問題についての集会があり、会場では市役所の職員と直接ディスカッションが出来るシステムになっていた。西ドイツでも、10年毎のマスタープランの改正期になると、そのプランの説明会が持たれ、市役所の職員が説明する。そこで激しい質疑応答があり、プラン自体、大きく修正される事が常識になっている。

さて、我が国では、住民参加と言っても、陳情・請願と言った間接的な参加しかなく、直接、市民が公開の場で意見を言うチャンスが無い。住民とのパイプ役たる議員も、その大多数は、就職の斡旋、交通事故のもみ消し、冠婚葬祭への出席など世話役的な仕事が多く、凡そ、街づくりについての仕事は少ない。いざ都市計画事業が実施となると、ゴネ得地域エゴなどが罷り通ってうまく行かない。

都市計画で最も大切なことは、都市計画での民主主義的討論であるが、この点、日本は、ヨーロッパの都市が経験して来た都市の自治の歴史と教訓を学ぶ事が肝要であるように思われる。

クラークソン工科大学への留学を終えて

理学部助教授 對 馬 勝 年

1981年くり返し使用の宇宙船として注目されたスペースシャトルは耐熱タイル140枚に損傷を受けて帰環した。この損傷は、意外にも、脱落した着氷体の衝撃によるものであった。着氷は、氷点下183℃の液体酸素と氷点下253℃の液体水素を収めた高さ47mの主燃料タンクに発生した。外壁を厚さ3cmの

断熱材で保温されていたが、局部的に表面が氷点下になる部分があり、そこに空気中の水分が凝固して氷ができた。私はJellinek教授の下で、ある種の薬品に水分を吸うほど氷点の下がる性質のあることに注目し、薬剤による着氷防止の研究に携わった。教授は午前・午後各一回は必ず実験室に来られ、新しい実

験結果を問い、その日の計画を尋ねることもある。これが毎日のようにくり返されたので、実験室にいる間、心の休まることがなかった。各研究員は実験ノートを作る義務を荷っており、そのノートを基に討論も行われた。教授は「実験の手を休めてはいけない。実験は一日一日積み重ね進歩してゆかねばならない」と言う。人生の目標が一日一日を完結して生きてゆくことであるのに照して、実験研究もまた人生と同じであるという感を強くした。実験に当っては、薬剤が重力の作用で流下したり、効果を発揮する前に蒸発してしまうなど、いくつもの困難な問題に直面した。そういうとき、教授が次々に出すアイデアを回想して、ある研究課題に食いついたが、最後、たとえどんな窮地に直面しようと、思考の限りを尽して活路を見い出して行くという教授の研究姿勢に感動を禁じえない。

大学のあるポツダムは日本の最北端、稚内と同緯度にある。3・4月、冷たい風に雪の舞う頃、細いパイプを打ち込まれたメープルの大木から甘い樹液の採取が行われる。寒さの利用の一つで、10倍に煮つめると特産品のメープルシロップとなる。春はなく、4月中旬、突如真夏のような暑さとなって、そのまま劇的に夏に変わった。ロビンが終日芝生にいこい、リスが動き回る。木々に咲く花々が美しい。カエルが金属音のような音色をかなで、湿原のホタルは暗やみに無数の光の線を放って幻想的であった。秋は長く変化に富む紅葉が楽しめる。北へ50分ほど走ると米加国境を流れるセントローレンス川にでる。一万トンの大型貨物船が航行し、国境の橋は荘大であった。近くにはこの川をせき止めたダムがあり、低落差ながら、米加合わせて180万KWの発電をしている。川はコンウォールの下流でカナダ国内に入るが、モントリオールの上流40Kmのところ、幅1Km、長さ24.5Kmの巨大な運河があり、セントローレンス川の流れの8割までを導き入れて157KWを発電するボハノイ発電所がある。一方、上流のナイアガラの滝のところでは400万KWの水力発電が行われており、水のもつ恵みの大きさに驚くばかりであった。これらの豊富な電力によって、五大湖・セントローレンス川周辺の産業が生まれ、厳しい冬の暖房もまかなわれている。何しろ、五大湖の水面は日本全土の7割の広さを誇り、五大湖から大西洋に注ぐセントローレンス川の流れは日本に降る総降水量の7割にも達しているのである。ナイアガラの滝も流量調整され、夜間の流量は日中の半分に制限される。

2度に渡り冬季オリンピックの開かれたレークプラ

シッドも今冬は雪に恵まれなかった。100年来の暖冬とのことで、冬中しばしば雨が降った。とりわけ感激したのは、氷点下に冷えた「過冷却の雨」が降ったときで、自動車は全面氷づけとなり、軒先からは見るみるうちに無数のツララが伸び出した。木々の枝は透明な氷に包まれ、道はアイスリンクのようにツルツルの氷で被われ、この上なく危険となった。朝この雨が降っているときは外出禁止となり、学校は休みか、あるいは道路への塩まきの終るまで始業時間が遅らされる。

今から1万年ほど前、厚い氷河に埋め尽されていた合衆国北部・カナダには無数の湖と、氷河地形が残存している。五大湖も当時の氷の重さに耐えきれず陸地が陥没してできたものといわれる。

クラークソン工科大学はコロイド科学に特色がある。J. Colloid and Interface Science 編集長は理学部長のKirker教授であり、ドイツから刊行されるColloid and Polymer Scienceには化学科主任Matijevic教授、Jellinek教授が編集委員を務めている。吸着に関するBETの式で有名なBrunauer教授は80才を迎えてなお健在であった。ハンガリーに住む娘さんが昨年留学され、米語教室で席を並べた。昨年、招かれたFendler教授は今春アメリカ化学賞を受けた。

アメリカの科学研究の特色としてプロポーザル制度がある。同じ研究室の力知先生が次のことを話してくれた。アメリカは原爆製造のマンハッタン計画を遂行するため全米から有能な研究者の知恵を必要とした。この計画は成功し、それ以来、アメリカは有能な研究者に金をばらまくことを憶えたのだという。支出側は最近の問題について公聴会を開き、プロポーザル研究のシステムを非常にうまく運用している。アメリカにはまた、基礎研究の成果を素早く実用化にもってゆくシステムがある。研究がある段階に達すると実用化のための試験をしなければならない。この試験は一企業で行うには負担が大きすぎるが、研究専門の会社というのがあって、企業のリスクなしに実用化試験が可能となっている。大学・会社の研究所には外国人が多い。この人たちは移民で来ている人が殆んどで、アメリカにいつくために涙ぐましい努力を払う。それが逆にアメリカの科学を推進する大きな力となっていると、いう。私を招いてくれたJellinek教授もドイツ生まれ、イギリス国籍、サッチャー首相に講義したこともあるというが、毎朝7時には大学へ来られ、土日も休

まれない。クラクソンで最もかせぎの良いという Matijevic 教授は夜 12 時すぎまで研究室におられることがある。それぞれに自分をブッシュしている。しかし、景気のよい化学科でも半数以上の教授は実験室も与えられず、教育だけに専念している。大学の実験設備などは富山大とあまり変わらないという印象を持った。図書館だけは土・日も夜 11 時まで開館され

ていたのは大変有難かった。

はじめに予想した豊かなアメリカは幻しであった。しかし、いかに粗末な設備で国際的な成果を挙げるかを学ぶのには好都合かも知れない。クラクソンはコロイド化学の研究では世界の 3 指に数えられるそうだから、若い研究者の留学をおすすめしたい。

==== 学部，学生部だより ====

◆ 教育学部だより

◇ 附属教育実践研究指導センター (CRTTE) その後

センター長事務取扱 大 澤 欽 治 (教育学部長)

1. 実践センターの発足

「学園ニュース」№40 で、建設途上の実践センターについて、その目的、業務内容並びに組織、施設の規模、各研究室の機能等を紹介いたしました。本年 2 月 17 日同センター新営工事の竣工をみ、引き続き新しい時代に積極的に対応できる設備を整え、6 月 11 日には開所式を行い、本格的な活動にはいることとなりました。

このセンターの設置が教育学部の宿願でありましただけに、感慨深いものがあります。

2. 期待される役割

教育学部の特色として、教育実践にあたって要求される基礎的な資質、教養の育成をあげることができます。そこで、教育実践に関する理論的、実践的研究及び指導を行うことを目的とする実践センターは、本学部の特色を発揮するために大きな役割をもつものであり、その研究指導の成果が重要となります。

教育実践は、教えられるもの自身が望ましい方向に逐次行動を変容する営みと深くかかわり、同時にこのことは教育実践が普遍的な人間性と唯一の存在としての独自性の交点に立って、自己を形成しようとする生きた主体と体面し続けなければならないことを意味します。従って教育実践には、様々の研究成果が総合され、生かされることが必要となります。

もともと大学における研究は自由で自主的ですが、この自由で自主的な研究の諸分野が教育の目をもって相互に交流し合い、さらにそこに附属学校等の具体的実践を導入することで、教育実践研究及び指導がより明らかにされると考えており、またこうした動

きの場と機能を提供するのが実践センターの役割でもあります。

3. Forum のような広場となることを

実践センター運営委員会では、このような観点から、センター運営の基本として「センターが教育に関する自由で気軽な学部内の懇談、討議の場となり、あわせて機器等の利用の便を図り、文字どおり教育実践研究のセンターとなるよう配意する」ことが確認され、さらに以下の諸点に留意することについて合意されております。

(1) 教育学部における教科専門、教科教育、教職科目等各分野の研究とその成果のうえに立ち、可能な共同研究が推進されることによって、新たな教育実践研究の開拓を行う。

(2) 教育実践を日毎進めている附属学校等の実践研究を重視し、これらの学校と協力研究あるいは共同研究を進める。

(3) 教育実践研究の多面性、効果性等を考慮し、科学技術及び機器の活用を進め、研究の実証性を重んじ、諸問題の解明を図る。

(4) 他大学や県内関係機関との研究、情報の交換あるいは必要と認められる協力研究を行う。

このように実践センターが古代ローマの Forum のごとく、対話の場となり、教育実践の真実態を追求する脈動に満ちた研究と指導の空間として活用される、そんな広場となることを念頭に据えております。

4. 教育実践研究指導に生かされる設備の機能

主要な設備については、研究計画に基づいた構想のもとに実践センター運営委員考で慎重に検討された結

果、57年度は授業実践研究システムと教育情報システムの2システムが導入されました。授業実践研究システムは視聴覚機器を主とした授業の実践研究、並びに指導を行うためのシステムであり、また教育情報処理システムは、教育実践研究において考えられる種々の情報の処理を行うためのパーソナルコンピュータシステムであります。

さらに、今後、増々進展してくる情報化社会のなかで、教育実践研究を行うにあたって、当実践センターでは、教育実践研究に役に立つ教育情報データベースの構築を考えております。

下図に「データベースという概念に基づいた実践センター各研究室の機能と情報の流れ」の概念を記しておきます。＝線は各研究室（授業実践研究室、映像教材開発室、マイクロテーティング室、訓練プログラム開発室、教材資料作製室）を、－線は各研究室のもつ機能を生かすことによって生ずる成果を示します。

なお、データベースの内容としては、授業実践研究に関するもの、教材・資料に関するもの、C A Iに関するものと、大きく3通りに分けて考えております。

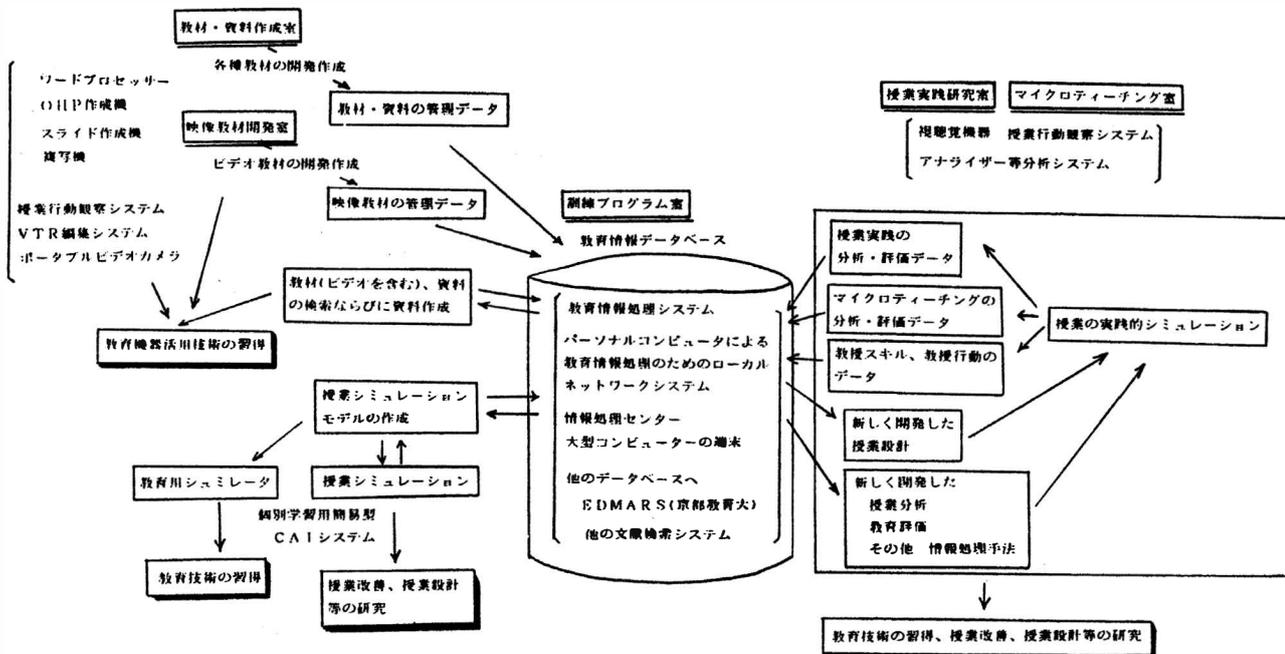
授業実践研究に関するデータベースには、授業実践やマイクロテーティングにおける分析、評価データ、さらに教授スキル、教授行動に関する分析データ、並

びに授業分析、授業設計法、教育評価法などに関するデータを蓄積し、その活用を図りたいと考えております。

教材・資料に関するデータベースでは、すでに蓄積されている教材研究用ビデオテープ、スライド、O H P、その他各種の研究資料等を有効に活用するため、いくつかのキーワードを設定し、目的とする教育実践研究のために必要な各種教材が、いつでも迅速に検索入手できるよう計画しています。文献資料については、他大学や情報サービス機関の利用も考えており、現在、京都教育大学の教育文献用データベースEDMARS-KYOTOならびに科学技術文献データベースJ O I Sとの公衆電話回線によるデータ通信を行っております。

C A Iに関するデータベースでは、授業設計技法、授業改善法、分析評価法などの教育技術を学生に習得させるための教育用シミュレータ等の作成を計画しております。

今後とも、逐次設備充実を図る予定であります。データベースへのデータの蓄積、またデータベースに蓄られたデータの有効的活用方法等十分検討しなければならない問題もあり、関係各位の御協力をお願いする次第であります。



データベースという概念に基づいた各研究室の機能と情報の流れ

◇ 富山大学のみなさまへ

富山県費留学生(教育学部) さか じり
坂 尻 まゆみ(ブラジル)

私は自分の影が日本とは反対側にくる南半球のブラジルのサン・パウロ市から富山県の県費留学生の一人として、日本に4月1日に着き、富山には2日に着きました。私の姉も前に富山大学でお世話になりました。専攻は幼児教育なので、この富山大学の教育学部で勉強させていただいております。

世界的に進んでいる日本の学術は、私たち、ブラジル「これからの国」の人々にとっては、とても興味深いものでしたので、教育の中でも最も大切な幼児教育を深めると言う形で留学させていただきました。もちろんそのほか、両親の生まれ故郷である日本を自分の目で見てみたいと言う気持も強くありましたので、美しい日本の風景や文化など、いろいろな事を見たり聞いたり、又は経験して帰りたいと思っています。

日本へ来てみて、まず最初に感動させられましたのは「さくら」の美しさでした。来た時はただの枯木としか思えなかった木が、見ているうちに満開になった時は、ほんとうに感動しました。さくらの美しさは話では聞いていましたし、もちろん写真も見ました。でも、実際みるのとは比べものになりませんね。桜だけではなく、だんだん青青としてくる山や野原、お花もいっぱい、これが春なのか、日本なのかとしみじみ感じました。ほんとうに自然の美しい国ですね。

それだけではなく、日本の発展ぶりはすごいものです。なんでも自動的で便利なのでおどろきました。そのほか、道路などもすごいものですね。どんな山奥でも、山の上まで立派な道路があるのには感心しました。いろいろな面で常に進歩発展してるって感じですね。

今年は、富山県も置県百年と言う意味深い年で、私たちも海外からのお客様たちと御一緒させていただき、県内のいろいろな所も見せていただき、感動の連続でした。その中でも立山は最高によかったです。又、5月9日に行なわれた置県百年記念式典にも参加させていただき、ほんとうに幸運に思っています。なんだかここ、富山では、日本のいい所を全部見ることができたんじゃないかと思えますので国内旅行は少し控えよ

うと思っているくらいです。大好きなお魚もとってもおいしいのでごきげんです。

大学では、先生方からのこまかな点、しかも最も大切な数々の要点や技術など、いろいろ素晴らしい御指導をいただき、又グループ活動など、とても参考になっております。ただ日本語が不十分なので、意味が全部分らないし、授業のノートもあまり取れないので、まず初めに日本語の勉強をしようと思っています。後は実際に幼稚園も見たいですね。

この前は新入生歓迎コンパにも参加させていただきましたけれど、なかなかいいものですね。クラスの人たちの交流、又、先輩後輩との、そして先生学生との交流、とても素晴らしいものだと思います。又、かくし芸など最高におもしろく、とても楽しかったです。

クラブ活動なども、ブラジルではありませんので興味がありましたので、クラシックギター部に入れてもらいました。クラブにはきびしさもあり、又、たのしさもあり、先輩への尊敬や後輩への思いやりなど、なんだか家庭的な暖かさが有るので、クラブ活動は一つの楽しみとなりました。ギターは初めてなので、なかなかむずかしいですけど、せめてほかの部員の足手まといにならないようにかんばりたいと思っています。

最後に、この素晴らしい「いい人、いい味、生き生きとやま」と言う言葉がびつたりの富山県に留学できたことを、県の皆様に心から感謝しております。最初の、なれるだろうと言う不安も、皆様の暖かい御支援によっていつのまにか消えていました。私も自分のできる範囲で一生懸命がんばろうと思っています。きっとこの一年間は、私の一生のあいだでも最高にいい思い出になるだろうと思います。

いろいろとお世話になっている皆様方、ほんとうにありがとうございます。これからもどうぞよろしくおねがいします。(Foi um prazer enorme conhecer esse país e o povo maravilhoso, que me acolheu com bastante calor humano. Agradeço-lhes de todo o coração. Muito obrigada). (坂尻さんのご両親は氷見市出身です。)

◆ 学生部だより

◇ 来春卒業予定の皆さんへ

学生部長 本 田 弘

皆さんは、卒業後の進路について、いろいろ検討されていることと思いますが、すでに御承知のように、就職のための選考開始時期等については、大学・高等専門学校関係11団体と中央雇用対策協議会の双方において次のような内容の申し合わせが行われております。

①求人(求職)のための企業と学生の接触開始は卒

業前年の10月1日。

②選考開始は卒業前年の11月1日。

これらの申し合せは、学校教育を適正に実施し、学生の就職の機会均等・公平性を確保すると云う観点から定められたものです。

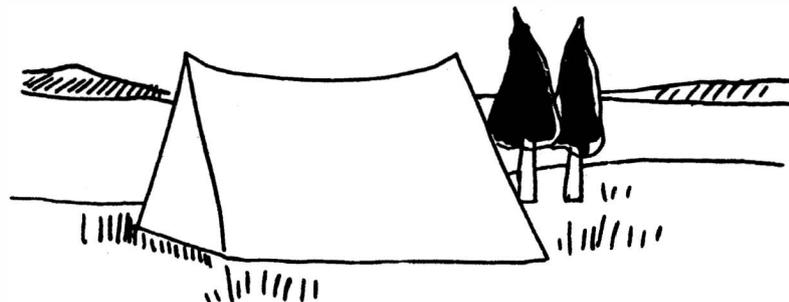
皆さんも、この趣旨を十分に理解されて就職協定遵守のため御協力をお願いします。

◇ 第35回北陸地区国立大学体育大会は、北陸地区国立大学体育連盟及び金沢大学の主催で7月10日(日)を中心に別記会場で開催されます。

競 技 日 程

| 種 目 | 期 日 | 開 始 時 間 | 競 技 会 場 | 競 技 方 法 及 び 小 種 目 |
|--------------|-----------------------------------|---------------------------------|--------------------------------------|---|
| 陸上競技 男・女 | 7月10日 | 10:00 | 金沢市陸上競技場 | 男子(トラック)100m, 200m, 400m, 800m, 1,500m, 5,000m, 110mH, 400mH, 3,000mSC, 400mR, 1,600mR (フィールド)走り高跳, 三段跳, 走り高跳, 棒高跳, 円盤投, 砲丸投, 槍投, ハンマー投 女子(トラック)100m, 200m, 400m, 800m, 1,000mH, 400mR (フィールド)走り高跳, 走り高跳, 円盤投, 砲丸投, 槍投 |
| 野 球 男 | 7月10日(雨天の場合11日まで順延) | 9:00 | 石川県立野球場 | リーグ戦 |
| 庭 球 男・女 | 6月5日, 7月8日, 9日, 10日(雨天の場合11日まで順延) | 9:00 | 福井大学コート (石川県兼六園コート 金沢大学小野町コート) | 団体(トーナメント戦)男子 4複7単 団体(リーグ戦)女子 2複3単 |
| 軟式庭球 " | 7月10日(雨天の場合11日まで順延) | " | 石川県兼六園コート | 団体(点取りリーグ) { 男子 5チーム9セット 女子 3チーム9セット 個人(トーナメント) { 男子 15チーム以内 9セット 女子 10チーム以内 9セット |
| 卓 球 " | 7月10日 | 10:00 | 金沢大学附属小・中学校 体育館 | 団体(リーグ戦) { 男子 4複7単 女子 2複5単 個人トーナメント { 男子 20名以内 (シングルスのみ) { 女子 12名以内 |
| バドミントン " | 7月 8日 7月 9日 7月10日 | 13:00 } 9:00 | 金沢大学小立野体育館 | 団体(点取りリーグ) { 男子 3複4単 女子 2複3単 個人(トーナメント) { シングルス 男子12名以内 女子10名以内 ダブルス 男子 6組以内 女子 5組以内 |
| バレーボール " | 7月10日 | 10:30 | 金沢市営中央市民体育館 | トーナメント戦 3位決定戦 3セット |
| サッカー 男 | 6月25日, 26日, 7月2日 | 6/24 14時 6/26 11時 7/2 14時 | 金沢大学城內グラウンド | トーナメント戦 |
| ラグビーフットボール " | 6月26日, 7月3日, 7月10日 | 14:00 | 石川県サッカー・ラグビー 競技場(根上町) | リーグ戦(決定のときだけ分け) (35-5-35) |

| 種 目 | 期 日 | 開 始 時 間 | 競 技 会 場 | 競 技 方 法 及 び 小 種 目 |
|---------------|-------------------------|-------------------------|--------------|---|
| 剣 道 男・女 | 7月 3日 | 9:00 | 金沢大学大体育館 | 団体(点取りリーグ){男子13名以内 女子5名以内} 個人(トーナメント){男子10名以内 女子5名以内} |
| 柔 道 男 | 7月 3日 | 10:00 | 金沢大学小体育館 | 団体(点取りトーナメント)3位決定戦 個人(トーナメント)4名以内 |
| バスケットボール 男・女 | 7月10日 | " | 石川県体育館 | トーナメント戦 3位決定戦 |
| 水 泳 " | 7月10日 | 8:00 | 松任若宮健民プール | 男子 自由形 100m, 200m, 400m, 800m 背泳 100m, 200m 平泳 100m, 200m バタフライ 100m, 200m メドレーリレー 400m リレー 200m, 800m 個人メドレー 200m 女子 自由形 100m, 200m, 400m 背泳 100m, 200m 平泳 100m, 200m バタフライ 50m, 100m メドレーリレー 400m リレー 200m, 400m 個人メドレー 200m |
| ヨ ッ ト " | 7月9日, 10日 | 9:00 | 七尾湾 | 総合と種目別(スナイフ, 470級) スナイフ級 2艇制 470級 2艇制 |
| 準硬式野球 男 | 7月9日, 10日(雨天の場合11日まで順延) | 7/9 13:00 7/10 10:00 | 金沢大学野球場 | トーナメント戦 |
| ハンドボール " | 7月10日 | 10:00 | 金沢市新工業大学体育館 | トーナメント戦 3位決定戦 |
| 空 手 道 " | " | " | 金沢大学小体育館 | 団体 自由組手(5組)リーグ戦 各試合2分3本勝負 個人 自由組手各4名以内2分3本勝負(引分けの時2分延長後判定) トーナメント戦 |
| 弓 道 男・女 | " | 9:00 | 小松市弘弓道場 | 団体 男子8名(1人20射計160射) 女子4名(" " 計 80射) 四ツ矢5回 個人 団体戦出場者および男女8名 (20射的の数の多へ者) |
| 体 操 " | " | 10:00 | 金沢大学大体育館 | 男子 床運動 鞍馬, 平行棒, 吊輪, 跳馬, 鉄棒 女子 床運動, 段差平行棒, 平均台, 跳馬 |
| 自 動 車 " | " | 7:00 | 東部自動車学校 | (1)軽四輪(550cc以下) (2)小型トラック(ナンバ キヤブ) ファイアレース(オープンタイプ) (3)小型乗用車 (4)普通乗用車 |
| 創作舞踊 男・女 | 7月 9日 | 14:00 | 金沢大学学生会館大ホール | 公開演技 |
| 少林寺拳法 " | " | 13:00 | 金沢大学大体育館 | 公開演武(団体演武, 組演武, 個人舌捕リーグ戦) |
| 合 気 道 " | " | 13:00 | 金沢大学小体育館 | 公開演武, 組演武 |
| アメリカンフットボール 男 | 7月 3日 | 13:00 | 福井大学グラウンド | 金沢大学と福井大学のエキシビジョン |



◇ 昭和58年度富山大学都道府県別入学者数調

昭和58年5月1日現在

| | 人 文 | 教 育 | 経 済 | 理 | 工 | 計 (%) |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|---------------|
| 北海道 | | | | 1 | | 1 (0.1) |
| 青森 | 1 | | 1 | | | 2 (0.2) |
| 岩手 | | | | | | |
| 宮城 | | | | 1 | | 1 (0.1) |
| 秋田 | | | | | | |
| 山形 | | | 2 | | | 2 (0.2) |
| 福島 | 1 | | | | | 1 (0.1) |
| 茨城 | | | 1 | | | 1 (0.1) |
| 栃木 | | | | | | |
| 群馬 | 1 | | 1 | 4 | | 6 (0.5) |
| 埼玉 | | | 1 | 4 | 1 | 6 (0.5) |
| 千葉 | | | | 2 | | 2 (0.2) |
| 東京都 | | | | 3 | | 3 (0.2) |
| 神奈川県 | 2 | | | | | 2 (0.2) |
| 新潟 | 5 | | 6 | 6 | 2 | 19 (1.6) |
| 富山 | 98 | 205 | 150 | 74 | 169 | 696 (58.4) |
| 石川 | 27 | 22 | 40 | 25 | 51 | 165 (13.8) |
| 福井 | 9 | 5 | 10 | 8 | | 32 (2.7) |
| 山梨 | | | 2 | 4 | | 6 (0.5) |
| 長野 | 3 | | 1 | 1 | 1 | 6 (0.5) |
| 岐阜 | 7 | 5 | 19 | 12 | 18 | 61 (5.1) |
| 静岡県 | 1 | | 8 | 3 | 3 | 15 (1.2) |
| 愛知 | 9 | 1 | 26 | 9 | 38 | 83 (6.9) |
| 三重 | | 1 | 4 | 3 | 1 | 9 (0.7) |
| 滋賀 | 2 | | 6 | 1 | 5 | 14 (1.2) |
| 京都 | | | 4 | 5 | 2 | 11 (0.9) |
| 大阪 | 1 | | 2 | 7 | 5 | 15 (1.2) |
| 兵庫 | 1 | 1 | 11 | 1 | 5 | 19 (1.6) |
| 奈良 | | | | | 2 | 2 (0.2) |
| 和歌山 | | | | | | |
| 鳥取 | | | | 1 | | 1 (0.1) |
| 島根 | | | 1 | | | 1 (0.1) |
| 岡山 | 1 | | 1 | | | 2 (0.2) |
| 広島 | | | | 1 | | 1 (0.1) |
| 山口 | | | | | | |
| 徳島 | | | | 1 | | 1 (0.1) |
| 香川 | | | | | | |
| 愛媛 | | | | | | |
| 高知 | | | | | 1 | 1 (0.1) |
| 福岡 | | | | 2 | | 2 (0.2) |
| 佐賀 | | | | | | |
| 長崎 | | | | | | |
| 熊本 | | | | | | |
| 大分 | | | 1 | | | 1 (0.1) |
| 宮崎 | | | 1 | | | 1 (0.1) |
| 鹿児島 | | | | 1 | | 1 (0.1) |
| 沖縄 | | | | | | |
| 計 | 169 | 240 | 299 | 180 | 304 | 1,192 (100.0) |

◇ 昭和57年度卒業生進路（就職）状況

昭和58年5月1日現在

| 学部 | 項目 学科課程 性別 | 卒業者数 | | 就職希望者数 | | 就職不希望者数 | | 就職者数 | | 未就職者数 | | 就職率 (%) | |
|------|---------------|------|-----|--------|-----|---------|-----|------|-----|-------|------|---------|------|
| | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 文理学部 | 文学科 | 3 | 1 | 3 | 0 | 0 | 1 | 3 | 0 | 0 | 1 | 100 | 0 |
| | 理学科 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 5 | 1 | 5 | 0 | 0 | 1 | 3 | 0 | 2 | 1 | 60 | 0 |
| 人文学部 | 人文学科 | 50 | 23 | 39 | 22 | 11 | 1 | 33 | 18 | 6 | 4 | 82.5 | 81.8 |
| | 語学文学科 | 25 | 62 | 22 | 54 | 3 | 8 | 21 | 47 | 1 | 10 | 95.4 | 83.9 |
| | 計 | 75 | 85 | 61 | 76 | 14 | 9 | 54 | 65 | 7 | 14 | 87 | 83.3 |
| 教育学部 | 小学校教員養成課程 | 25 | 104 | 25 | 100 | 0 | 4 | 24 | 82 | 1 | 18 | 96 | 82 |
| | 中学校教員養成課程 | 18 | 23 | 16 | 23 | 2 | 0 | 16 | 19 | 0 | 4 | 100 | 82.6 |
| | 養護学校教員養成課程 | 1 | 22 | 1 | 21 | 0 | 1 | 1 | 12 | 0 | 9 | 100 | 57.1 |
| | 幼稚園教員養成課程 | 0 | 25 | 0 | 25 | 0 | 0 | 0 | 24 | 0 | 1 | 0 | 96 |
| | 計 | 44 | 174 | 42 | 169 | 2 | 5 | 41 | 137 | 1 | 32 | 97.6 | 81.1 |
| 経済学部 | 経済学科 | 91 | 8 | 86 | 7 | 5 | 1 | 86 | 6 | 0 | 1 | 100 | 85.7 |
| | 経営学科 | 101 | 10 | 93 | 8 | 8 | 2 | 93 | 8 | 0 | 0 | 100 | 100 |
| | 経営法学科 | 38 | 8 | 35 | 7 | 3 | 1 | 35 | 6 | 0 | 1 | 100 | 85.7 |
| | 計 | 230 | 26 | 214 | 22 | 16 | 4 | 214 | 20 | 0 | 2 | 100 | 90.9 |
| 理学部 | 数学科 | 25 | 15 | 22 | 15 | 3 | 0 | 16 | 15 | 6 | 0 | 76.2 | 93.3 |
| | 物理学科 | 30 | 5 | 24 | 4 | 6 | 1 | 18 | 2 | 6 | 2 | 75 | 50 |
| | 化学科 | 22 | 13 | 11 | 12 | 11 | 1 | 11 | 11 | 0 | 2 | 100 | 84.6 |
| | 生物学科 | 13 | 9 | 9 | 9 | 4 | 0 | 6 | 6 | 3 | 3 | 85.7 | 66.6 |
| | 地球科学科 | 15 | 10 | 10 | 9 | 5 | 1 | 9 | 5 | 1 | 4 | 83.3 | 62.5 |
| | 計 | 105 | 52 | 76 | 49 | 29 | 3 | 60 | 39 | 16 | 11 | 81.3 | 77.5 |
| 工学部 | 電気工学科 | 58 | 0 | 50 | 0 | 8 | 0 | 50 | 0 | 0 | 0 | 100 | 0 |
| | 工業化学科 | 40 | 2 | 35 | 2 | 5 | 0 | 34 | 2 | 1 | 0 | 97.1 | 100 |
| | 金属工学科 | 30 | 0 | 20 | 0 | 10 | 0 | 19 | 0 | 1 | 0 | 95 | 0 |
| | 機械工学科 | 48 | 0 | 44 | 0 | 4 | 0 | 43 | 0 | 1 | 0 | 97.7 | 0 |
| | 生産機械工学科 | 41 | 0 | 38 | 0 | 3 | 0 | 38 | 0 | 0 | 0 | 100 | 0 |
| | 化学工学科 | 34 | 0 | 28 | 0 | 6 | 0 | 27 | 0 | 1 | 0 | 96.4 | 0 |
| | 電子工学科 | 42 | 0 | 34 | 0 | 8 | 0 | 34 | 0 | 0 | 0 | 100 | 0 |
| 計 | 293 | 2 | 249 | 2 | 44 | 0 | 245 | 2 | 4 | 0 | 98.4 | 100 | |
| 合計 | | 752 | 340 | 647 | 318 | 105 | 21 | 617 | 263 | 30 | 60 | 95.4 | 82.7 |

◇ 昭和57年度卒業生産業別就職状況

昭和58年5月1日現在

| 学部 | | 人文学部 | 教育学部 | 経済学部 | 理学部 | 文理学部 | 工学部 | 合計 | 学部 | | 人文学部 | 教育学部 | 経済学部 | 理学部 | 文理学部 | 工学部 | 合計 | | |
|------------------|-----------|------|------|------|-----|------|-----|-----|----------------------------|-------------------|-------|------|------|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | 産業別 | 産業別 |
| 農業 | | | | 1 | | | | 1 | 不動産業 | | | | | | | | | | |
| 林業 | | | | | | | | | 運輸・倉庫業 | | 1 | | 8 | 1 | | 2 | 12 | | |
| 漁業・水産養殖業 | | | | | | | | | 電気・ガス・水道 | | | | 2 | | | 5 | 7 | | |
| 鉱業 | | | | | 1 | | | 1 | マスコミ | 新聞・出版 | | 11 | | 2 | 1 | | 14 | | |
| 建設業 | | 4 | | 3 | 2 | | 9 | 18 | | ラジオ・テレビ | | | | | | | | | |
| 製 造 業 | 食品 | 1 | | 7 | 2 | | 3 | 13 | サ ー ビ ス | 小計 | | 11 | | 2 | 1 | | 14 | | |
| | 繊維 | | | 3 | 1 | | 7 | 11 | | 広告・観光業 | | | | 1 | | | | 1 | |
| | 印刷 | 2 | | 3 | | | 4 | 9 | | 医療保健業 | | 1 | | 1 | 1 | | | 3 | |
| | 化学工業 | 1 | 1 | 7 | 7 | | 17 | 33 | | 非営利的団体 | | | | | 1 | | | 1 | |
| | 石油・石炭製品 | | | 2 | | | | 2 | | 公共企業体等 | | | | | | | | | |
| | 鉄鋼 | | | | | | 4 | 4 | 小計 | | 1 | | 2 | 2 | | | 5 | | |
| | 非鉄金属 | 3 | 1 | 1 | 2 | | 9 | 16 | 教 育 | | 20 | 157 | | 29 | | 1 | 207 | | |
| | 金属製品 | | | 9 | | | | 16 | 25 | 公 務 | 国家公務員 | | 1 | | 13 | 1 | | 1 | 16 |
| | 一般機械器具 | 2 | | 3 | 2 | | 34 | 41 | 地方公務員 | | 11 | 3 | 18 | 3 | | 7 | 42 | | |
| | 電気機械器具 | 3 | | 9 | 15 | | 57 | 84 | 小計 | | 12 | 3 | 31 | 4 | | | 8 | 58 | |
| | 輸送用機械器具 | 4 | | 3 | | | 26 | 33 | 上記以外のもの | | 36 | 14 | 58 | 27 | 3 | 22 | 160 | | |
| | 精密機械器具 | 1 | 1 | | 2 | | 4 | 8 | 合 計 | | 119 | 178 | 234 | 99 | 3 | 247 | 880 | | |
| その他 | 1 | | 6 | | | 15 | 22 | | | | | | | | | | | | |
| 小計 | | 18 | 3 | 53 | 31 | | 196 | 301 | 規 模 別 就 職 先 | 大企業 (従業員数300人以上) | | 46 | 2 | 161 | 32 | 1 | 192 | 434 | |
| 卸 売 | 商事・貿易 | 3 | 1 | 3 | | | 2 | 9 | | 中企業 (従業員数30-299人) | | 24 | 8 | 32 | 27 | 2 | 38 | 131 | |
| | 百貨店・スーパー | 7 | | 15 | | | 2 | 24 | | 小企業 (従業員数29人以下) | | 8 | | 8 | 2 | | 8 | 26 | |
| 小計 | | 10 | 1 | 18 | | | 4 | 33 | | 企業以外 | | 41 | 168 | 38 | 38 | | 9 | 289 | |
| 金 融 保 険 | 銀行 | 2 | | 17 | | | | 19 | | | | | | | | | | | |
| | 信用金庫・信用組合 | | | 16 | | | | 16 | | | | | | | | | | | |
| | 保険業 | 2 | | 12 | | | | 14 | | | | | | | | | | | |
| | 証券・商品取引 | 2 | | 11 | 1 | | | 14 | | | | | | | | | | | |
| 小計 | | 6 | | 56 | 1 | | | 63 | | | | | | | | | | | |

◇ 学生教育研究災害傷害保険の改善について

この制度は、学生の教育研究活動中の災害事故に対する全国的な救済制度として昭和51年4月に設立されたものです。

本保険については、発足以来昭和53年、昭和55年の2回にわたって保険給付内容の改善が図られてお

りますが、このたび更に次の表のとおり課外活動部分を中心とする保険給付内容の改善が図られ、昭和58年4月1日以降に発生した傷害に適用されることになりました。保険料は従前のとおりで変更ありません。

| 担保範囲 | | 保険金の種類 | 改善後の保険金額 | 改善前の保険金額 |
|------------------|------------------|----------------------------|--|--|
| 現 行 担 保 | 正課中 学校行事中 | 死亡 後遺障害 医療 入院(日額) | 1,200万円 54万円~1,800万円 治療日数4日以上・付表のとおり 4,000円 | 1,200万円 54万円~1,800万円 治療日数4日以上・付表のとおり 4,000円 |
| | キャンパス内の 課外活動中 | 死亡 後遺障害 医療 入院(日額) | 600万円に増額 27万円~900万円に増額 治療日数14日以上に短縮・付表のとおり 4,000円 | 200万円 9万円~300万円 治療日数30日以上・付表のとおり 4,000円 |
| 追 加 担 保 | キャンパス外の 課外活動中 | 死亡 後遺障害 医療 入院(日額) | 同 | 上 |
| | キャンパス内の 休憩中 | 死亡 後遺障害 医療 入院(日額) | 同 | 上 |

(注)① 従来、不担保となっていた航空機搭乗中(正課・学校行事・課外活動中)の災害事故については、今回の改訂で担保されることになりました。

② キャンパス外の課外活動は、この保険においては大学に届け出た活動になっています。

③ キャンパス外の課外活動で次のものは除きます。

山岳登山、リュージュ、ボブスレー、航空機操縦(自家用航空機搭乗を含む。)、グライダー操縦、スキューバダイビング、外洋におけるヨット操縦、パラセール搭乗、ハングライダー搭乗、その他これらに類する危険な運動。

④ キャンパス内にいる間で次の場合は担保されません。

学寮にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、または大学が禁じた行為を行っている間。

<付 表>

| 平常の生活ができるようになるまでの治療日数 | | 医療保険金額 |
|-----------------------|----------|---------|
| 治療日数 | 1日～ 3日 | 円 |
| " | 4 ～ 6 | 6,000 |
| " | 7 ～ 13 | 15,000 |
| " | 14 ～ 29 | 30,000 |
| " | 30 ～ 59 | 50,000 |
| " | 60 ～ 89 | 80,000 |
| " | 90 ～119 | 110,000 |
| " | 120 ～149 | 140,000 |
| " | 150 ～179 | 170,000 |
| " | 180 ～269 | 200,000 |
| " | 270 ～ | 300,000 |

◇ 学園ニュース編集委員

学生部長 本田 弘
 人文学部 山口 幸祐
 " 釘 貫 享
 教育学部 大塚 恵一
 " 山本 都久
 経済学部 今井 晴男
 " 小原 久治

理学部 松本 賢一
 " 広岡 公夫
 工学部 多々 静夫
 " 杉本 益規
 教養部 高山 安和子
 " 山本 孝一

